

日時：2019年6月30日（日）13:00～15:45

場所：名古屋市立大学看護学部 3階308号室

理事：奈良間美保、浅野みどり、江本リナ、及川郁子、勝田仁美、塩飽仁、添田啓子、中野綾美、楢木野裕美、堀田法子、堀妙子、薬師寺裕子

監事：内田雅代、濱中喜代

選挙管理委員長：小川純子

評議員出席者：内正子、大見サキエ、加藤令子、鎌田佳奈美、上別府圭子、来生奈巳子、込山洋美、佐藤朝美、白畑範子、関根弘子、祖父江育子、高野政子、高橋泉、竹之内直子、田村恵美、泊祐子、友田尋子、西田志穂、西田みゆき、野中淳子、野間口千香穂、服部淳子、濱田米紀、濱田裕子、古橋知子、古谷佳由理、松岡真里、水野芳子、三輪富士代（五十音順）

出席社員数：53名（会場42名、委任状11名）

欠席社員数：1名

## 【開会】

### 出席者数の確認

司会の浅野副理事長より、13:00に開会が宣言され、出席者の確認があった。一般社団法人日本小児看護学会評議員数54名（2019年6月30日現在）のうち、会場出席者42名、委任状による出席11名、欠席1名であり、定款第27条2項により評議員の過半数の出席を満たしていることから、社員総会が成立した。

### 理事長挨拶

現体制になり2年が経過した。そして昨年度末に会員対象の調査を行い、非常に貴重な意見を多数頂いた。現在の学会活動および、今後の学会活動へ向けての基礎資料となる内容になった。ご協力頂き、心から感謝したい。

今期、本学会の資産が年々増加しているという課題に対して重点的に取り組んだ。この課題の要因として2015年からの年会費の増額、および法人化により、学術集会の収支が直接、本学会の資産に影響していることが見出された。対策として、新規事業に取り組んでいくことが挙げられた。その際には、業者への委託を積極的に行っていくことも重要となるため、今後は専門家の支援を受けつつ安全に運営していくことも求められていく。

本日の社員総会では、新規事業となる学会設立30周年記念事業等についても報告したい。また、最近の話題として、JANAの総会後の講演にて研究の倫理的課題について大きく取り上げられていた。本学会でも今後は判断基準となるガイドライン等の検討も必要と考えられる。

次の理事会体制での継続課題となるが、今期はその道筋を付けられたらと思っている。評議員の

皆様には今後ともご協力をお願いしたい。

### 議事録署名人の承認

定款第29条により、社員総会の議事録署名人として、古谷佳由理評議員、水野芳子評議員が推薦され、承認された。

### 【報告事項】

#### 1. 一般社団法人日本小児看護学会2018年度理事会報告（p.1）

社員総会資料に基づき、奈良間理事長より報告された。

##### 1) 第1回理事会報告（2018年5月13日）

①2017年度収支決算及び監査結果、②2018年度予算案、③名誉会員推薦に関する申し合わせ事項の修正、④学会30周年記念事業の立ち上げ、④HPのリニューアル、⑤看護系学会等社会保険連合の会費値上げ、⑥2018年度災害看護研修会の計画、などについて審議・承認された。

##### 2) 第1回書面理事会（2018年6月14日～6月18日）

World Academy of Nursing Science(WANS)からの次期会長と学会開催地に関する提案について審議を行い、いずれも「賛成」とすることが承認された。

##### 3) 第2回理事会報告（2018年7月20日）

①投稿数増加に伴う編集委員の増員及び投稿規定・投稿チェックリストの一部修正、②第3回川出富貴子国際発表助成の選出、③学会HPの「災害関連情報」の構成及び内容の改定、などについて審議・承認された。

##### 4) 第3回理事会報告（2018年10月28日）



①査読ガイドラインの修正、②人材養成研修事業のPR研修、③日本看護協会による認定看護師制度の再構築について、④Asia Pacific Pediatric Nursing Conferenceの理事会参加、⑤30周年事業の人材養成研修を2コースに分けて計画すること、などについて審議・承認された。

#### 5) 第4回理事会報告(2018年12月22日)

①講師への謝金・謝品の規定額の値上げ、②理事会資料のペーパーレス化としてDropBox Business Standardの活用、③第10回研究奨励賞の選考及び第3回川出富貴子国際発表助成の選出、④子どものエンドオブライフケア指針の会員発送、⑤30周年記念事業の会員調査に関する委託事業と調査内容、などについて審議・承認された。

#### 6) 第5回理事会報告(2019年3月10日)

①各委員の2018年度事業報告及び2019年度事業計画案、②2019年度予算案についての基本方針、③第31回学術集會会長候補者及び2019年度名誉会員候補者、④2018年度の理事選挙の結果、⑤人材養成研修e-learningの内容と予算案、などについて審議・承認された。

### 2. 2018年度定時社員総会報告(2018年6月23日)(p.3)

名古屋市立大学看護学部にて行われた。会場出席者43名、委任状10名、計53名であった。

#### 【報告事項】

資料に基づいて、①2017年度理事会・定時社員総会、②会員数・会員異動状況、③2017年度事業について報告された。

#### 【審議事項】

①定款の改正、②2017年度決算・会計監査、③2018年度事業計画、④2018年度予算案、⑤名誉会員該当者無し、⑥第30回学術集會会長、について審議・承認された。

### 3. 事務局報告(p.4)

2018年度末現在、会員数2041名、正会員2029名、名誉会員8名、賛助会員4名である。会費納入率は正会員が90%であり、会員総数の変化については、2017年度末は合計会員数が2046名、2018年度末は合計会員数が2041名であった。2018年度の正会員入会者数は246名、退会者数は253名である。地区別・都道府県別の教育関係・医療関係会員数の内訳が報告された。

### 4. 事業報告

各委員長より、資料に基づいて報告された。

#### 1) 学術集會報告(p.5)

2018年7月21日、22日に名古屋国際会議場に

て、名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻奈良間美保氏を会長に、メインテーマを「子ども、家族とともにある看護」として開催された。口演81題、示説89題で、参加者数2005名であり、非常に多くの方に参加していただいた。

#### 2) 総務委員会報告(p.5)

社員総会、会員集會、理事会の運営を行っており、総務委員会は年5回行っている。学会の運営に関しては、社員総会や会員集會の準備・実施、予算案と収支決算の作成、外部機関との交渉などを行っている。

#### 3) 編集委員会報告(p.5)

①学会誌第27巻の編集・J-STAGE公開:2018年度内では60編が投稿され、受理23編、辞退・取り下げ17編、査読継続20編となっている。さらに2019年3月には研究10編、実践報告1編、資料7編をJ-STAGEで新規公開した。

②現専任査読者の再任および新規専任査読者の依頼手続き:専任査読者として再任141名、新任43名の計184名が奈良間理事長より委託された。

③新規投稿、査読ガイドライン、論文チェックリストの改正、改定:円滑な査読を行うために期限の変更や原稿枚数制限の変更を行った。

#### 4) 広報委員会報告(p.6)

①ニュースレターの編集・発行:第52号、53号を編集、発行した。2018年よりメールマガジンにて電子配信とした。

②メールマガジンの配信:2018年度はメールマガジンを31件配信し、研修会、助成金の募集、会費納入のお知らせ等を掲載した。

③学会ホームページの管理・更新:学会ホームページの大幅なリニューアルに向け、トップ画面の構成やマイページの設置ができるように等、準備を進めている。夏以降までに整えられるようにしていく予定。

#### 5) 学術・研究推進委員会報告(p.6)

①研究奨励賞事業:評議員から選考委員10名を選出し、第10回(2018年度)日本小児看護学会研究奨励賞の選考を行い、理事会の承認を経て、以下の1編が受賞論文に決定した。

森浩美, 飯崎あずさ, 佐々木俊子(2018):短期入院で計画手術を受けた学童期の子どもの思い, 27, 27-35.

②研究助成:第9回(2019年度)研究助成に対し、6件の申請があり、2件の研究助成を決定した。また、第10回(2020年度)の研究助成について募集案内を行った。

③川出富貴子国際発表助成:第3回(2018年度)川出富貴子国際発表助成は3件の申請があり、1件は応募条件を満たしていなかったため、2件の



助成を決定した。

④学術集会運営支援事業：日本小児看護学会第28回学術集会の運営の補助及び第29回学術集会の企画・準備の補助を行った。

⑤学術集会ガイドライン案：学会発表における利益相反及び演題発表取り下げ等に関するガイドライン案を作成した。

#### 6) 教育委員会報告 (p. 7)

①地方会：2018年8月25日に九州地区にて地方会を開催した。宮崎県立看護大学 三宅玉恵氏を代表として、64名の参加者で行われた。2019年度地方会代表者は今後検討していく。

②医療的ケア研修セミナー共催企画：2018年11月4日に金沢で行われた日本小児神経学会において第15回医療的ケア研修セミナーを共催した。209名の参加があり、看護職は約4割であった。

③研修会の開催：2018年10月14日に兵庫県で、テーマ「児童虐待ケースに向き合う、寄り添う、ケアするワークショップ」として実施した。37名の参加者があった。また、人材養成PR研修として、神戸（2019年1月12日）と東京（2019年2月9日）にて、テーマを「地域で暮らす医療的ケア児を支援する看護職を増やそう！」として実施した。関西では66名、関東では74名の参加があった。関西・関東とも病院からの参加者が多く、次いで訪問看護ステーション、施設などであった。

#### 7) 倫理委員会報告 (p. 8)

①小児看護実践における倫理的課題についての活動：第28回学術集会において、パネル展示や小児看護実践における倫理、小児看護における研究倫理について啓発活動を行った。また、テーマセッション「子どもの緩和ケアについて語り合おう！～子どものエンド オブ ライフケア指針の活用に向けて第3弾」を開催し、指針の活用可能性や現状の課題について討議を行った。2019年3月には「子どものエンド オブ ライフケア指針 子どもと家族がよりよく生きることを支えるために」冊子を作成した。

②小児看護における研究倫理に関する活動：2018年12月2日に日本学校保健学会編集委員会企画のシンポジウムに高谷恭子委員がシンポジストとして参加した。2015年に作成した「子どもを対象とする看護研究に関する倫理指針」は参考になるという意見を頂いた。また、第29回（2019年）学術集会のテーマセッションの準備、倫理委員会の活動紹介のパネル展示の準備を行った。

③移植関連学会協議会の加入学会として参加：本年度も継続して参加を行った。

#### 8) 小児看護政策委員会報告 (p. 9)

①小児看護の重要課題に対する対応：日本看護

協会認定看護師制度の再構築に対し、「小児プライマリケア分野」「新生児集中ケア」の基準カリキュラム作成に参加した。決定された制度及びカリキュラム内容はHPに公開される。

②健やか親子21（第2次）推進協議会等での参加団体としての活動：テーマ別グループ2（育児支援等）では会議参加、健やか親子21関連事業への講師推薦を行った。テーマ別グループ4（調査研究やカウンセリング体制の充実・ガイドラインの作成）では会議参加、リーフレット「自殺予防」「子宮頸がんワクチンの普及」について検討し、「自殺予防」についてはHPにて公開されている。

③健やか親子21（第2次）の活動：第28回学術集会テーマセッションにて「小児看護の専門性を地域の子育て支援で展開しよう」をテーマに討議を行った。

④日本医療事故・調査支援センターへの協力：2019年3月20日に日本医療安全調査機構協力者説明会へ出席した。また、医療事故調査に関する専門家の派遣依頼に対して1名、推薦している。

⑤人材養成ワーキンググループとしての活動：30周年に向けた人材養成事業について、WGメンバーとして参加している。

#### 9) 診療報酬検討委員会報告 (p. 10)

①2018年診療報酬改定の読み取りと2020年診療報酬改定に向けた活動：2018年診療報酬改定及び2020年改定に向けた小児看護にかかわるニーズ調査を実施し質問紙調査分の結果をまとめた。質問紙調査の結果をもとに、5件のヒアリング調査を実施し、次年度に1件を実施する予定。また、2020年診療報酬改定要望書（案）4件を作成し、「不適切な養育環境にある要支援児童と家族に関する専門の対策チームを設置している小児入院施設への体制加算」「小児慢性特定疾患病児童に対する成人移行期支援に対し、対策チームを設置している施設への評価」「訪問看護ステーション機能強化型1・2に別表8の要件追加」の3件を要望書として看保連へ提出することになった。

②診療報酬に関する学会員への啓発活動：第28回学術集会にてテーマセッションを実施し、小児看護に関わる診療報酬改定内容を報告した。また、テーマセッション資料を学会HPに掲載した。第29回学術集会ではテーマセッション「平成30年度診療報酬改定 入退院支援加算はとれているのか～なぜとれる、なぜとれない、みんなで考えよう！～」を企画した。

③30周年記念事業人材養成についての検討・企画：30周年記念事業人材養成について、他の委員会と共同で企画・運営を行った。

#### 10) 国際交流委員会報告 (p. 10)



①国際学会の紹介：2018年度に開催される小児看護に関する国際学会の一覧を作成し、学会員にメールマガジンで配信した。

②国際交流委員会主催のテーマセッションの開催：第28回学術集会にて、テーマセッション「日本だけではもったいない?!国際学会で学ぼう!」を開催した。

③The Asia Pacific Pediatric Nurses Association (APPNA) 理事会および6th Asian Pacific Congress of Pediatric Nursing (APCPN) への参加：2018年8月27日～29日にインドネシアで開催された理事会でAPPNAの新理事長としてProf. CHEN Jia njun (中国)が選出された。日本の代表理事は中村由美子前国際交流委員長から奈良間美保理事長へ交代した。6thAPCPNでは、日本から一般演題13演題(示説)が発表された。

④The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (第6回WANS国際学術集会)企画委員会への参加：WANSの発起人団体として企画委員会に加わるようになった。学術集会長は関西医科大学片田範子氏で2020年2月28日、29日に大阪国際会議場にて開催される。

#### 11) 災害対策委員会報告 (p. 11)

①各地区の災害ネットワーク作り：2019年2月4日にネットワークの充実に向けたシミュレーションを実施した。メール配信件数は47件、返信数は40件、このうち36件(返信数の90%)は24時間以内の返信であった。

②教育推進活動：2018年10月27日にワークショップ「過去の災害から学ぶ地域で療養する子どもと家族の減災」を開催した。参加者は47名で、例年よりも会員が多く参加された。

③学会HPにおける災害関連情報の整理：学会HPのリニューアルに伴い新しくできるよう、災害関連情報ページの改訂案を作成した。

④第28回学術集会におけるパネル展示：パネル展示にて、これまでの研修会実績や今後の研修会計画について展示し、会員への周知を行った。

#### 12) 選挙管理委員会報告 (p. 11)

①理事選挙の準備：選挙に関わる定款施行細則等および選挙スケジュールの確認を行い、メールにて評議員への理事選挙の周知を図った。

②理事選挙の実施：2019年度～2020年度任期の理事選挙を実施した。

#### 13) 30周年記念事業の準備・検討 (p. 12)

①会員へのweb調査：子どもと家族の健康と福祉に貢献するために求められる学会の役割や取り組みの方策を見出すために、会員2133名にweb調査を実施し、478名より有効回答が得られた。別添

資料1を基に、会員向けアンケートの結果報告が行われた。

②人材養成事業：日本小児総合医療施設協議会看護部会への協力要請をし、人材養成事業キックオフ研修会の開催を行った。また、人材養成研修のコースは「医療依存度の高い子どもや家族の看護」と「小児看護実践基盤」の2コースに分け、e-learningと集合研修にてコースを修了することができる。別添資料2を基に、コースの詳細について報告された。

#### 質疑応答

質問なし。

#### 【審議事項】

##### 1. 2019～2020年度の理事選挙報告について

- ・定款細則第5章第9条を基に、評議員54名の中から理事10名を選出する。
- ・2019年1月27日、東京慈恵会医科大学西新橋キャンパスにて6名の選挙管理委員にて理事選挙開票を実施した。
- ・被選挙人は54名、投票数は49票であった。
- ・当選人に委員長からメールにて就任依頼を行い、2019年2月8日に理事として浅野みどり、及川郁子、勝田仁美、上別府圭子、塩飽仁、添田啓子、檜木野裕美、野間口千香穂、三輪富士代、薬師寺裕子の10名を選出した。

審議を経て、出席した評議員の過半数の賛成が認められ、可決された。継続理事となる浅野理事、及川理事、勝田理事、塩飽理事、添田理事、檜木野理事、薬師神理事より、就任の承諾が得られた。

##### 2. 理事長および副理事長の選出

- ・定款施行細則第9条8項に基づき、理事長および副理事長の選出を行う。
- ・協議にて理事長に浅野みどり氏、副理事長に塩飽仁氏が推薦され、出席した評議員の過半数の賛成が認められ、承認された。

##### 3. 指名理事の承認

- ・指名理事として山田知子氏、新家一輝氏が推薦され、審議を経て、出席した評議員の過半数の賛成が認められ、承認された。

##### 4. 2018年度決算

資料に基づいて堀理事より報告された。

##### 1) 収入の部 (p. 14)

2018年度の会費収入合計は19,638,080円、収入合計は52,728,869円であった。前期繰越収支差額を合わせた収入合計は124,112,878円であった。



## 2) 支出の部 (p.14)

2018年度の支出合計は39,541,953円、収支差額は13,186,916円となった。次期繰越金収支差額は84,570,925円である。

## 3) 年度正味財産増減計算書 (p.15)

経常増減として経常収益、経常費用、及び経常外増減として経常外収益、経常外費用の詳細を示している。

## 4) 2018年度貸借対照表 (p.16)

年度末現在でのすべての資産と負債についての状態を詳細に示している。

## 5) 2018年度財産目録 (p.17)

年度末現在でのすべての資産と負債についての名称などを詳細に示している。正味財産は、85,618,859円となっている。

## 5. 2018年度会計監査報告 (p.19)

濱中監事、内田監事にて、2019年5月9日に2018年度決算報告について監査を行い、会計帳簿、証拠書類を照合調査の結果、特に問題なかったことが報告された。

また、2018年4月1日から2019年3月31日までの事業年度の理事の職務執行について監査されたこと、方法及びその結果について報告された。

## 質疑応答

質問なし。

審議を経て、2018年度決算、会計監査報告について出席した評議員の過半数の賛成が認められ、可決された。

## 6. 2019年度事業計画案

資料に基づき各委員長より報告された。

社員総会：1回6月、会員集会：1回8月、理事会5回開催予定

### 1) 第29回学術集会 (p.20)

2019年8月3日(土)、4日(日)にロイトン札幌会場で、会長：松浦和代(札幌市立大学看護学部) テーマ：「小児看護の知を国際支援へ」として開催予定。

### 2) 学会誌発行・編集 (p.20)

- ①学会誌第28巻の編集・J-STAGE公開
  - ②学会誌第28巻の編集及び冊子発行
  - ③学会誌掲載論文転載の許諾審議
  - ④学術集会での査読者向けのテーマセッション企画及び実施
  - ⑤J-STAGE公開論文のメディカルオンラインにおける電子配信
- ### 3) 広報 (p.20)

①ニュースレターの編集・発行：ニュースレター電子配信を年2回配信する。

②メールマガジンの配信：学術集会や委員会からのお知らせをタイムリーに配信する

③学会ホームページのリニューアル：学会ホームページリニューアルを進め、ホームページ管理、更新業務の実施。

### 4) 学術・研究推進 (p.20)

①一般社団法人日本小児看護学会研究奨励賞制度：第11回(2019年度)日本小児看護学会研究奨励賞の選考を行う。

②一般社団法人日本小児看護学会研究助成：第10回(2020年度)研究助成を公募し申請の中から2件まで選考する。第11回研究助成の広報を行う。

③一般社団法人日本小児看護学会川出富貴子国際発表助成：第4回(2019年度)川出富貴子国際発表助成について公募を行い、応募の中から3件程度選考する。

④日本小児看護学会学術集会運営支援事業：日本小児看護学会第29回学術集会において、企画、準備、運営の補助を行う。また、第30回の企画、準備の補助を行う。

⑤日本小児看護学会における利益相反開示に関する検討：倫理委員会と共に、本学会における利益相反指針について検討。

### 5) 小児看護に関する教育 (p.20)

①研修会開催：1回・2019年度研修会の検討

②地方会開催支援：代表者と開催地について検討し支援していく

③2019年10月6日に第16回医療的ケア研修セミナー(日本小児神経学会との共催)の開催。

④人材養成 PR 研修の会員へのホームページ掲載・配信：2018年度東京会場でDVD用に講義の撮影を行っており会員へ無料で配信し還元する予定。

### 6) 小児看護に関する倫理検討 (p.20)

①小児看護の倫理に関する啓発活動：第29回学術集会にて「子どもを対象とする看護研究に関する倫理について語りましょう！」の開催。倫理委員会の活動のパネル掲示。「子どものエンドオブライフケア指針」の活用。

②2018年度日本小児看護学会地方会(宮崎)のワークショップでの検討事項を整理し、「小児看護の日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針」に追記する。

③小児看護における倫理課題を取り上げた活動の実施。

④移植関連学会協議会の加入学会としての活動。

### 7) 小児看護政策に関する検討 (p.21)

①小児看護の重要課題に対する政策提言：社会状況や30周年事業質問紙調査から検討。



②健やか親子 21（第 2 次）推進協議会参加団体としての活動：テーマ別グループ会議への参加・協力、第 29 回学術集会ではテーマセッションの開催予定。

③医療事故調査等支援団体としての活動

④その他：人材支援養成事業の支援を含めて社会状況をみながら検討していく。

#### 8) 小児看護関連診療報酬検討 (p. 21)

①2020 年診療報酬改定に向けた活動：診療報酬改定に向けたニーズ調査結果をまとめ、小児看護経験者へ周知。ヒアリング調査 2018 年残り分を実施し、結果をまとめる。2020 年診療報酬改定要望書(案)の作成。

②診療報酬に関する学会員への啓発活動：第 29 回学術集会テーマセッションの実施。

#### 9) 国際交流 (p. 21)

①国際学会についてメールマガジン・ホームページにて紹介。

②国際学会参加を促進するための情報を学会ホームページに掲載。

③ Paediatric Nursing in Academic Communication Conference 2019 への参加及び英語セッションでの公演発表。

#### 10) 災害対策 (p. 21)

①各地区の災害ネットワークづくり：シミュレーションの実施によるネットワークの充実

②教育推進活動：災害に関する啓発のための研修会として 10 月 12 日福島県にて「急性期に関する子どもへの対応」をテーマに開催予定。

③学会ホームページ上の災害関連情報の整理

④関連団体との連携

#### 11) 選挙管理 (p. 22)

①投票率の向上に向けて 2019 年の学会にて会員の選挙への関心を高めるポスター掲示を企画。

②2020 年度に実施する評議員選挙に向けて、選挙スケジュールや選挙区分についての検討。

#### 12) 30 周年記念事業の準備・検討 (p. 22)

①会員への web 調査の分析と報告：調査結果の分析。小児看護学会第 29 回学術集会にて報告し、30 周年記念の基礎資料とする。

②30 周年事業の企画・準備：新旧理事、評議員、第 30 回学術集会会長等から構成する企画(実行)委員会の設置、企画・準備。

③人材養成事業：2020 年度配信に向けた「医療依存度の高い子どもと家族の看護コース」e-ラーニングの作成及び集合研修等の検討。コースエントリー及び管理体制の検討。2020 年度後期配信に向けた「小児看護実践基盤コース」の教材作成。

### 質疑応答

・会費が増額しているが、学会の資産は多く残っている。人材養成事業の方向性としては臨床の人を対象とする計画が多いが、教員へ向けた教育研修も考えてほしい。

➤ 昨年の意見も踏まえて、今回、会員調査に教育研修の項目を含めた結果、基礎教育研修を希望する意見も認められた。今後の検討課題であるとする。

・人材養成事業を会員外へも提供することはできないか。臨床では小児と成人を行き来する人もいるため、小児領域のみでなく、ジェネラリストナースを育てるという観点からも小児看護を考えてもらいたい。また、研修を受けない人にも資料等を閲覧できると良いのではないかな。

➤ 今回の人材養成事業では、小児看護における社会的ニーズを前提に、小児看護の専門性の高い人と混合病棟等で勤務する看護師をどのように支援するかという課題に取り組んだ。学会では、まずは会員に向けて還元する。学会の目的を考慮したときどの様な手順、方法で進めていくかを検討する必要がある。

・貧困問題や、インバウンドという形で海外の方が日本に入ってくる社会において、どのような形で小児看護学会が社会にメッセージを示すのか、看護師もしくは小児に関わる人が抱える問題に対してとしてどのような対応をするか教えてほしい。

➤ この 2 年間で理事会として必ずしも十分に検討できていなかった内容もある。世の中の変化に学会もできるだけ対応する必要がある。小児医療で望まれることは何か、という視点で新事業に着手したが、30 周年記念事業を契機に今後の重点課題も明らかにできるのではないかと考える。

・貧困に対する問題として小児看護学会のみでなく小児保健協会と連携して考えるほうが良いのではないかな。

➤ 調査結果より他学会との連携を希望している会員が多かった。重点課題を整理したうえで連携の必要性やどのような協働が効果的であるか順次検討していく必要がある。

・厚生労働省の 2020 年改正カリキュラムの内容の一つに小児の実習期間が 1 週間になる案があるが、文部科学省管轄の大学だけでなく 3 年過程の専門学校も対象に小児看護学会としてどのように考えられているか教えてほしい。

➤ 具体的に正確な情報を収集する必要がある。大学独自のカリキュラムが尊重される中で、厚労省管轄の教育機関が抱える問題に学会としてどのように対応するかも考慮する必要がある。



ある。

- ・日本看護協会出版の日本看護学会論文集における小児看護が発刊されなくなったが、学会として声明を出すことはできないか。
- 学会としての提言については必要に応じてこれまで、また今後も行っていく。学術団体としてより充実した活動を行うことが重要だと実感している。
- ・厚生労働省の看護基礎教育検討会が新カリキュラム案に、小児実習は実習施設の確保が困難なため、各1単位以上、1週間の実習期間でよいこととなっている。学会としても2単位、2週間が必要であることを発信していくことが必要ではないか。
- 情報収集に努め、提言の必要性の有無を含め今後の課題になる。
- ・会員(教員)の多くが大学教員であることが会員調査で分かったが、専門学校教員も学会員として所属していただくということが重要であると考え。今後、会員をどのような形で増やしていくのか、また、今後在宅と連携していくためにはどういう方たちに入会していただくかということも今後の課題ではないか。
- 子どもと家族にとっての有益な活動を考えると、重要な検討課題である。
- ・学会の会計について、税理士から意見を得る機会の有無や、他学会では繰越金が増えた際にどのようにしているかなど、情報があれば教えてほしい。
- 本学会は税理士と委託契約し、会計上の確認や意見をいただいている。学会の財産が膨大になっており、新しい事業や現在の事業の充実が必須の課題だと考えて取り組んできた。その背景から、今年度は30周年事業にかなりの予算を投じ特別会計として明確に示すことで会員には理解をいただきたい。
- ・30周年記念事業は30周年で終わってしまうため、継続的な新規事業の運営が必要ではないか。
- 30周年事業のeラーニングは作成したら終わりではなく、見直しやランニングコストなどを見込んでの事業計画である。その点についても、今後どうしていくかということは理事会で検討する必要がある。

審議を経て、2019年度事業計画案について出席した評議員の過半数の賛成が認められ、可決された。

## 7. 2019年度予算案

堀理事より資料(p.23)に沿って提案された。

2018年度の収支決算の実績をもとに予算案を立てた。今年度より特別会計を立てることとなったため、会計については、一般会計と特別会計の二本立てとなる。

### 【一般会計予算案】

#### 1) 収入の部

##### ①会費

20,330,000円を計上した。

##### ②雑収入

400,000円を計上した。

##### ③学術集会収入

##### ④研修会参加費

以上、当期収入合計は41,302,000円を見込んでいる。

#### 2) 支出の部

##### ①会員集会費

##### ②会議費(社員総会) 理事会5回分がある。

##### ③事業費

##### ④事務費

・庶務費

・会計経費

・事務業務委託

・移転費

・租税公課

・雑費

##### ⑤予備費

以上、当期支出合計は45,936,974円である。

### 【特別会計予算案】

#### 1) 収入の部

当期収入合計は、一般会計繰越金より8,961,736円である。

#### 2) 支出の部

・人件費

・会議費

(30周年企画会議5回・人材養成WG会議4回)

・旅費・交通費

・郵送・通信費

・消耗品

・印刷費

・雑費

・謝金

(eラーニング講師謝金、会員調査業者委託費等)

以上、当期支出合計は8,961,736円である。

### 質疑応答

質問なし。

以上、2019年度予算について出席した評議員の過半数の賛成が認められ、可決された。

## 8. 名誉会員について

・定款第9条並びに名誉会員推薦に関する申し合わせ事項に基づいて、成嶋澄子氏を理事会より推薦される。

名誉会員推薦について審議を経て、出席した評議員の過半数の賛成が認められ、可決された。

## 9. 2021年度第31回学術集会会長の承認

第31回学術集会会長として、埼玉県立大学 教授 添田啓子氏が理事会から推薦された。

出席した評議員の過半数の賛成が認められ、可決された。

### 【2020年度 第30回学術集会会長挨拶】

#### 配布資料一覧

- ・一般社団法人日本小児看護学会 2019年度社員総会（評議員会）資料
- ・日本小児看護学会 会員向けアンケート 報告書（別添資料1）
- ・人材養成事業 各コース内容に関する資料（別添資料2）
- ・一般社団法人日本小児看護学会 ホームページリニューアルに関するチラシ
- ・日本小児看護学会第30回学術集会に関するチラシ

この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人により以上の議事を認め署名押印する。

2019年 6月 30日

議長

奈良間 美保



議事録署名人

古谷 佳由理



議事録署名人

水野 恭子



第30回学術集会会長の二宮啓子学術集会会長より挨拶がなされた。メインテーマ選定の背景、企画委員の紹介、神戸市の紹介、会場の紹介などもあり、協力及び参加を呼びかけた。

会長：二宮啓子（神戸市看護大学看護学部）

日時：2020年6月27日（土）、28日（日）

会場：神戸ポートピアホテル

テーマ：子どもと家族のセルフケアを支える看護

### 【閉会】

これをもって、すべての議題を終了し、15:45一般社団法人日本小児看護学会 2019年度の社員総会を閉会した。